

日本の携帯電話関連企業がサービスやコンテンツの海外販売に力を入れている。NTTドコモは「iモード」関連サービスの情報配信技術を欧州などの通信会社に提供。交流サイト(SNS)大手のグリーは国内で製作

戦略分析

したゲームの配信を今年にも海外で始める。世界的なスマートフォン(高性能携帯電話)スマホ)の普及を追い風に、日本向けに先行して開発したサービスやコンテンツを市場開拓の余地がより大きい海外で販売する。

携帯コンテンツ 海外へ売り込み



スペインで開催中の見本市でもコンテンツをアピール

日本企業のコンテンツでの海外進出

NTTドコモ	「iコンシェル」やマンガなどを欧州の通信会社などに外販
グリー	日本で開発したゲームを海外でも配信できるよう改良
アララ	拡張現実(A R)技術を欧州企業などに提供開始
美術出版ネットワークス	携帯絵文字をアジアの通信会社などに展開へ
mediba	スマホアプリの広告配信サービスを欧州企業に提供
SHIFT	スマホを使って相手に香りを送れるソフトを世界で配信
フェリカネットワークス	「おサイフケータイ」をサムスン電子などと共同で世界市場に導入
ANALOG TWELVE	手書き文字入力ソフトを世界で展開へ

各社はスペイン・バルセロナで開催中の携帯電話見本市「モバイル・ワールド・コンGRESS(MWC)」に出展。売り込みに懸命だ。ドコモが欧州などの通信会社に今年から順次外販するのは「iコンシェル」や「iチャネル」のiチャネルは携帯電話の画面にニュースなどを表示する。iモード関連

ドコモ iモード 技術提供
グリー ゲームの仕様統一

技術は日本独自の仕様だったが、スマホ向けに作り替えて海外で利用できるようにした。ドコモはコンテンツ会社と協力し、仏通信会社向けに日本のマンガの販売も始めた。グリーは国内外で異なる開発仕様を統一し、国内で製作したゲーム作品も海外で配信する。4月6月期に国内外拠点で開発した作品12本を投入。グリーの会員数は昨年末で約1億9千万人。今後は海外を軸に利用者を増やし、2012年6月期中に3億人、3〜5年後で10億人を目指す。ベンチャー企業も商機を狙っている。アララ(東京・港)は4月にシンガポール、今夏にシリコン

バレーに拠点を設立。AR(拡張現実)と呼ばれる技術を海外企業向けに提供を始める。スマホのカメラを専用のバーコードにかざすと、画面に動画や立体的なアニメーションが表示できる。まず航空会社の販促向けに提供し、欧米やアジアの企業にも売り込む。美術出版ネットワークス(東京・千代田)は電通などと協力し、日本の絵文字(デコレーションメール)の海外販売を4月に始める。約50社の絵文字作成会社から調達し10万個以上をそろえる。東南アジアの通信会社などへの提供を想定しており、12年度に30カ国以上の展開をめざす。(バルセロナ)渡辺直樹